

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	橋川成美
所属機関名	理学部 臨床生命科学科
職位	准教授
在籍年	17 年

主な担当授業科目、教育の責任

主な担当科目：生理学、薬理学、卒業研究

教育の責任：

- ① 臨床検査技師、臨床工学技士の国家試験に合格させるために、基礎医学の知識を定着させる
- ② 学生個人の研究力を高め、社会に役立つ人間を育成する

教育の理念

① 知識の定着

医療従事者として必要な基礎知識の定着をさせる

② 医療人として社会に活躍するために必要な応用力を研究を通して身につけさせる

問題解決力、発信力、傾聴力といったスキルを研究を通じて学生の時よりトレーニングさせる。学会発表は社会に出たのちも、行う必要がある場合があるため、学生の時に経験することで、本人の自信、自己肯定感を上げる。

教育の方法・方針

① 知識の定着

座学と演習を組み合わせる

- ・パワーポイントで説明
- ・教科書のキーワードに線を引かせる、重要な語句を書き込ませる
- ・上記の内容の演習問題を解かせる

これを 3 部行う 20～30 分×3 回

ミニテスト：次回の講義の開始前に、前回の講義範囲の 10 問復習を行う

小テスト：一章が終わるごとに行う

課題はマイログにて、毎週提出させる

② 医療人として社会に活躍するために必要な応用力を研究を通して身につけさせる

実験手技の修得

- ・実験の手法をその都度、実験ノートに書かせる、次に一人で行えるように
- ・得られた結果はパソコンにてグラフを作成させ、ノートに貼らせる

英語論文セミナー

- ・自分のテーマと関係のある論文を読み、皆の前で発表する

実験セミナー

- ・卒業論文発表に向けて、自分の実験内容をスライドにまとめ、発表する

学会発表・参加

- ・大学院を希望する学部生は、霧島神経薬理フォーラムに参加させ、他大学の同年代の学生の発表を聞き、交流を行うことで研究者として社会に参加することの意義を感じさせる
- ・大学院生は年に必ず 1 回は薬理学会あるいは、検査学会で学会発表を行う

論文作成

- ・岡山理科大学紀要に実験データを投稿する。

教育の成果

① 知識の定着

- ・2024 年度春、授業アンケートより

生理学

満足度 満足＋ほぼ満足 91.2%

シラバス授業目標達成度 できた＋だいたいできた 86.7%

薬理学

満足度 満足＋ほぼ満足 91.6%

シラバス授業目標達成度 できた＋だいたいできた 81%

【その他コメント】

復習しやすい

一回の講義に学ぶ内容が多すぎる

- ・国家試験合格率 82.7% (2024 年 2 月受験)

② 医療人として社会に活躍するために必要な応用力を研究を通して身につけさせる

- ・卒業研究発表の評価：概ね良好

- ・修士論文の成果（大学院生）

第 147 回日本薬理学会関東部会 学生優秀発表賞 受賞 「CGRP は MAOB をエピジェネティックに調節し不安を引き起こす」

第 96 回日本薬理学会年会 優秀ポスター賞 受賞「Protective role for calcitonin gene-related peptide in atherosclerosis progress in ApoE knockout mice」

今後の目標

工学部の学生の生理学 I の本試験平均点が 31 点と低かったため、**来年度からは「やればできる」ように定期テストの出題範囲をもっとせばめる**。授業中の演習問題や、小テストの問題をそのまま定期テストに出すなどし、平均点を 60 点くらいにあげる。薬理学は工学部の学生においても本試験平均点が 57.5 点であり、せめてこのくらいの点数をとらせるようにする。これにより、脱落者の人数を減らし、**多くの学生が国家試験受験にたどりつけるようにする**。

一方で、成績上位の学生は「物足りない」という意見も見受けられる。この点は今後の課題であるが、講義の最後に「アドバンス課題」のようなものを出し、チャレンジさせるような工夫をしてもよいかもしれない。

根拠資料

2024 年春 授業アンケート結果

2023 年度 国家試験合格率 学科内まとめ